

第2節 各教科の目標及び内容並びに指導計画の作成と内容の取扱い

1 生活科

【教科の目標】

小学部	
具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

【段階の目標】

学部・段階 目 標	小学部		
	1 段階	2 段階	3 段階
知識・技能	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付ける。	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに関心をもつとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
学びに向かう力・人間性	自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。	自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。	自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

生活科【内容】

学部・段階		小学部		
内 容		1 段階	2 段階	3 段階
基本的な生活習慣に関する内容	ア 基本的 生活習慣	食事や用便等の生活習慣に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	食事、用便、清潔等の基本的生活習慣に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身の回りの整理や身なりなどの基本生活習慣や日常生活に役立つことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考・判断・表現	必要な身辺処理が分かり、身近な生活に役立てようとする。	必要な身辺処理や集団での基本的生活習慣が分かり、日常生活に役立てようとする。
		知識・技能	身近な生活に必要な身辺処理に関する基礎的な知識や技能を身に付けること。	日常生活に必要な身辺処理等に関する知識や技能を身に付けること。
	イ 安全	危険なことや危険な場所等における安全に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	遊具や器具の使い方、避難訓練等の基本的な安全や防災に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	交通安全や避難訓練等の安全や防災に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考・判断・表現	身近な生活の安全に関心を持ち、教師の援助を求めながら、安全な生活に取り組もうとすること。	日常生活の安全や防災に関心を持ち、安全な生活をするよう心がけること。
		知識・技能	安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付けること。	安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。
生活や家庭に関する内容	ウ 日課・予定	日課に沿って教師と共にする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	絵や写真カードなどを手掛かりにして、見通しをもち主体的に取り組むことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	一週間程度の予定、学校行事や家庭の予定など関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考・判断・表現	身近な日課・予定が分かり、教師の援助を求めながら、日課に沿って行動しようとする。	日常生活の日課・予定が分かり、おおよその予定を考えながら、見通しをもって行動しようとする。
		知識・技能	身近な日課について、関心をもつこと。	日課や身近な予定を立てるために必要な知識や技能を身に付けること。
	エ 遊び	自分で好きな遊びをすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	教師や友達と簡単な遊びをすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	日常生活の中での遊びに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考・判断・表現	身近な遊びの中で、教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり、遊びを工夫しようとしたりすること。	日常生活の遊びで、友達と関わりをもち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすること。
		知識・技能	身近な遊びや遊び方に関心をもつこと。	きまりのある遊びや友達と仲良く遊ぶことなどの知識や技能を身に付けること。
生活や家庭に関する内容	オ 人との関わり	小さな集団での学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近な人と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近なことを教師や友達と話すことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考・判断・表現	教師や身の回りの人に気付き、教師と一緒に簡単な挨拶などをしようとする。	身近な人と自分との関わりが分かり、一人で簡単な応対などをしようとする。
		知識・技能	身の回りの人との関わり方に関心をもつこと。	身近な人との簡単な応対などをするための知識や技能を身に付けること。
	カ 役割	学級等の集団における役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	学級や学年、異年齢の集団等における役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	様々な集団や地域での役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考・判断・表現	身の周りの集団に気付き、教師と一緒に参加しようとする。	様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとすること。
		知識・技能	集団の中で役割に関心をもつこと。	集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。

学部・段階		小学部		
内 容		1 段階	2 段階	3 段階
生活や家庭に関する内容	キ 手伝い・仕事	教師と一緒に印刷物を配ることや身の回りの簡単な手伝いなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	人の役に立つことのできる手伝いや仕事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分から調理や製作などの様々な手伝いをすることや学級の備品等の整理などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考・判断・表現 身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒にしようとする。	教師の援助を求めながら身近で簡単な手伝いや仕事をしようとする。	日常生活の手伝いや仕事を進んでしようとする。
		知識・技能 簡単な手伝いや仕事に関心をもつこと。	簡単な手伝いや仕事について知ること。	手伝いや仕事をするための知識や技能を身に付けること。
	ク 金銭の扱い	簡単な買い物や金銭を大切に扱うことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	金銭の価値に気付くことや金銭を扱うことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	価格に応じて必要な貨幣を組み合わせるなどの金銭に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考・判断・表現 身の回りの生活の中で、教師と一緒に金銭を扱うようとする。	身近な生活の中で、教師に援助を求めながら買い物をし、金銭の大切さや必要性について気付くこと。	日常生活の中で、金銭の価値が分かり扱いに慣れること。
		知識・技能 金銭の扱い方などに関心をもつこと。	金銭の扱い方などを知ること。	金銭の扱い方などの知識や技能を身に付けること。
中学部の社会や理科につながる内容	ケ きまり	学校生活の簡単なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	順番を守ることや信号を守って横断することなど、簡単なきまりやマナーに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	学校のきまりや公共の場でのマナー等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考・判断・表現 身の回りの簡単なきまりに従って教師と一緒に行動しようとする。	身近で簡単なきまりやマナーに気付き、それらを守って行動しようとする。	日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動しようとする。
		知識・技能 簡単なきまりについて関心をもつこと。	簡単なきまりやマナーについて知ること。	簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付けること。
	コ 社会の仕組みと公共施設	自分の家族や近隣に関心をもつこと及び公園等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の住む地域のことや図書館や児童館等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の地域や周辺の地理などの社会の様子、警察署や消防署などの公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考・判断・表現 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気付き、それらを表現しようとする。	日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現すること。
		知識・技能 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつこと。	身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。	日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすること。
	サ 生命・自然	教師と一緒に公園や野山などの自然に触れることや生き物に興味や関心をもつことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	小動物等を飼育し生き物への興味・関心をもつことや天候の変化、季節の特徴に関心をもつことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近にいる昆虫、魚、小鳥の飼育や草花などの栽培及び四季の変化や天体の動きなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考・判断・表現 身の回りにある生命や自然に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとする。	日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現すること。
		知識・技能 身の回りの生命や自然について関心をもつこと。	身近な生命や自然について知ること。	日常生活に関わりのある生命や自然について関心をもって調べること。
	シ ものの仕組みと働き	身の回りの生活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近な生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	日常生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考・判断・表現 身の回りにあるものの仕組みや働きに気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	身近にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しようとする。	日常生活の中で、ものの仕組みや働きが分かり、それらを表現すること。
		知識・技能 身の回りにあるものの仕組みや働きについて関心をもつこと。	身近にあるものの仕組みや働きについて知ること。	ものの仕組みや働きに関して関心をもって調べること。

生活科

【指導計画作成上の配慮事項】

〈小学部〉	○年間や単元など内容や時間のまとまりを見通し、資質・能力を育成できるよう、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにする。その際、児童が具体的な場面で実際の活動を通して、自分と身近な社会や自然との関わりについての関心を深められるようにする。 ○各教科等との関連を図り、指導の効果が高まるようにするとともに、中学部の社会科、理科及び職業・家庭科の学習を見据え、系統的・発展的に指導できるようにする。 ○内容「生命・自然」については、動物や植物の成長や変化、命の尊さに気付けるよう、継続的な飼育、栽培を行うなど工夫する。 ○入学当初、児童の思いや願いをきっかけとして始まる幼児期の遊びを通した総合的な学びから、他教科等における自覚的な学びに向かうことができるようにする。 ○自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、できるようになったこと、役割が増えたことなどが自分で分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちをもって、さらに主体的な生活を行うことができるようにする。
--------------	--

【内容の取扱い】

〈小学部〉	○具体的な活動や体験を行うに当たり、日々の日課に即して、実際の指導ができるようにする。 ○身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それを通して気付いたことや楽しかったことなどを、多様な方法により表現し、考えることができるようにする。 ○具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるよう、見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を行うようにする。 ○内容「金銭の扱い」は、算数科との関連を図りながら、実際の指導ができるようにする。 ○具体的な活動や体験を行うに当たり、日常的に関われる身近な幼児、高齢者など多様な人々と触れ合うことができるようにする。
--------------	---

2 国語科

【教科の目標】

学 部 目 標	小学部	中学部
	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。	日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。	日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
学びに向かう力、人間性等	言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。	言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。

【段階の目標】

学 部・段階 目 標	小学部			中学部	
	1 段階	2 段階	3 段階	1 段階	2 段階
知識・技能	日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。	日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	日常生活や社会生活、職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。
思考・判断・表現	言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。	順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。
学びに向かう力・人間性	言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。	言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。	言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。	言葉がもつよさに気付くとともに、いろいろな図書に親しみ、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

学 部 ・ 段 階			小 学 部		
内 容			1 段階	2 段階	3 段階
知識・技能	言葉の特徴や使い方	言葉の働き	身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じることに。	身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じることに。	身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くことに。
		発声・発音	—	—	姿勢や口形に気を付けて話すことに。
		書き言葉	—	日常生活でよく使われている平仮名を読むことに。 ◎自分や友達、動物などの名前。	日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。 ◎絵本、易しい読み物、わらべ歌、TVやPCの画面の中の文字。
		語彙	言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れることに。 ◎動詞、形容詞等も扱う。	言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くことに。 ◎同義語、類義語、対義語、動物や果物の名前、色や形を表す語句。
		文・文章	—	—	文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ることに。 ◎具体的な場面や挿絵を用いて2～3語文を考える。
		言葉の違い	—	—	—
		音読	—	—	正しい姿勢で音読すること。
	話や文章の中に含まれている情報の扱い方	情報間の関係	—	—	物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。 ◎物事を時間や手順に沿って順序立てて捉える。
		情報の整理	—	—	図書を用いた調べ方を理解し使うことに。 ◎目的をもって図書資料を読む。
	我が国の言語文化	伝統的な言語文化	昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむことに。 ◎古くから伝わる物語、わらべ歌、言葉遊び 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れることに。 ◎呼びかけに対する応答遊び、音まね・声まね（擬声語・擬態語）遊び	昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことに。	昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむことに。
			遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れることに。 ◎呼びかけに対する応答遊び、音まね・声まね（擬声語・擬態語）遊び	遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむことに。	出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れることに。
		書写	・いろいろな筆記用具に触れ、書くことを知ること。 ・筆記用具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。 ◎クレヨン、チョーク、筆、はけ、鉛筆、ボールペン、水性・油性ペン	・いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむことに。 ・写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けることに。 ◎黒板、画用紙、チョーク、鉛筆、フェルトペン、クレヨン等。 ◎いろいろな線の運筆、線の始点と終点を遊びながら書く。	・目的に合った筆記用具を選び、書くことに。 ・姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くことに。
		読書	読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつことに。 ◎紙芝居、ペーパーサト、写真、ビデオ等も含む	読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつことに。 ◎掛図、絵や写真の文字も含む。	読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。

中学部	
1 段階	2 段階
身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。
発音や声の大きさに気を付けて話すこと。	発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。
長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。 ◎助詞の「は」「へ」「を」については、繰り返し使う機会を設ける。	長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。
言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。 ◎同義語、対義語、上位語・下位語、同音異義語	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。 ◎聞いたり読んだりする際に新しい言葉に着目する、話したり書いたりする際にいろいろな表現を使う。
主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解すること。	修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。
普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。 ◎敬体は「です」「ます」「でした」「ました」、常体は「である」「だ」「であった」「だった」など
語のまとまりに気を付けて音読すること。	内容の大体を意識しながら音読すること。 ◎「いつ、どこで、だれが、なにを、どうした」を押さえ、様子が分かるように工夫してゆっくり読む。
事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。 ◎「いつ」誰が何をしたなど、内容の時間的な順序に気を付けながら情報を整理する。	考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解すること。
—	必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。
自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ◎教材の例：響きやリズムを体感できる作品、親しみやすい作者の作品、代表的な歌集から内容が理解しやすい歌
挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知ること。 ◎年賀状や暑中見舞いなどで用いる語句や事項の挨拶で用いる語句があることや、その使い方を知る。	生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。 ◎「塵も積もれば山となる」「善は急げ」「石橋を叩いて渡る」、他に交通安全や火災予防の標語など
・姿勢や筆記用具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ・点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。 ◎「点画」とは、「横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点」など	・点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 ◎「配列に注意して」とは、行の中心や行と行との間、文字と文字との間がそろっているかなど文字列及び複数の文字列に注意する。
読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。 ◎「いろいろな種類」とは、物語、昔話、絵本、科学的な読み物、図鑑など ◎学校図書館などの利用方法を身に付ける。

学部・段階 内容			小学部		
			1 段階	2 段階	3 段階
思考・判断・表現	聞くこと・話すこと	聞き取り	教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。	身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結びつけたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。	絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ること。
		指示理解	身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。	簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。 ◎「図書室に絵本を返す」など、3～4語文による指示や説明。	—
		話題の設定	伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。 ◎映像や写真等を手掛かりに伝え、相手の考えにも関心を向ける。	経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えること。 ◎絵や写真などを手掛かりにする。
		構成の検討	—	—	見聞きしたことのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。 ◎様子や気持ちに当てはまる言葉を探す、話す順番を考える。
		挨拶・応対	—	挨拶をしたり、簡単な台詞などを表現したりすること。	挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。
		発声・発音	—	—	相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けること。 ◎相手との距離や場面に応じて声の大きさに気を付けて話す。
		話合い	—	—	相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。
	書くこと	題材の設定	身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集めること。 ◎ノートやカードに書き出す、言葉を補う写真や絵などを集める。
		構成の検討	—	—	見聞きしたり、経験したりしたことから、伝えたい事柄の順序を考えること。 ◎「始め—中—終わり」などの構成で順序を考える。
		記述	文字に興味をもち、書こうとすること。 ◎書くことを十分に楽しむ。	自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりすること。	見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。 ◎思いを伝えたり、思い返したりする楽しさを実感する。
		推敲	—	—	書いた語句や文を読み、間違いを正すこと。
		共有	—	—	文などに対して感じたことを伝えること。 ◎書かれたものに対して、質問をしたり感想を言ったりする。
	読むこと	内容の把握	教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること。	教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。 ◎イメージしたことを言葉や動作で表そうとする。	絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。
		構造の把握	絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。	教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。 ◎「はじめ」「さいご」「はじめに○○、次に○○」。	絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。 ◎挿絵を並び替える、小見出しを付ける。
		読み取り行動する	絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。 ◎場所や動作を表す絵や写真、シンボルマーク、「○」「×」「→」等。	日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付き、読もうとしたり、表された意味に応じた行動をしたりすること。	日常生活に必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりすること。 ◎きまりや立て札、標識。
		要点の理解	—	—	—
		考えの形成	絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。	絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。	登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。

中学部	
1段階	2段階
身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えること。	身近な人の話や放送などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えること。
—	—
話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。	相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。 ◎「目的」：説明や報告、知りたいことを聞く、互いの思いや考えを伝え合う。
見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えること。	見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。
自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話すこと。	相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。
—	—
相手の話に関心を持ち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつこと。	物事を決めるために、簡単な役割や進め方に沿って話し合い、考えをまとめること。 ◎「簡単な役割」の例：司会者、提案者、参加者。
見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。	相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。 ◎「目的」：伝える、報告する、説明する、依頼する、案内する。
相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ◎文章には「始め—中—終わり」などの構成があることを意識できるようにする。	書く内容の中心を決め、自分の考えと理由などとの関係を明確にして、文章の構成を考えること。
文の構成、語句の使い方に気を付けて書くこと。 ◎一文の意味が明確になるよう、語と語の続き方を考えて記述する。	事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように書き表し方を工夫すること。 ◎事実と自分の考えとを明確に区別して書くために、文末表現に注意する。
自分が書いたものを読み返し、間違いを正すこと。	文章を読み返す習慣を身に付け、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりすること。
文章に対する感想を持ち、伝え合うこと。	文章に対する感想を伝え合い、内容や表現のよいところを見付けること。
簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。 ◎「簡単な文や文章」：簡単な物語や紀行文、詩、短い劇の脚本など。	様々な読み物を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。 ◎「様々な読み物」：物語や詩、短い劇の脚本、紀行文、記録や報道の文章。
語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉えること。 ◎生活に必要な身近なものの使用法や簡単な料理法の説明書などを読み、大体の使い方や作り方を捉える。	語と語や文と文との関係を基に、出来事の順序や気持ちの変化など内容の大体を捉えること。
日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。	日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。 ◎実生活における様々な説明書などを取り上げる。
—	中心となる語句や文を明確にしながら読むこと。
文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりすること。	読んで感じたことや分かったことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

国語科

【指導計画作成上の配慮事項】

〈小・中学部共通〉	○年間や単元など内容や時間のまとまりを見通し、資質・能力を育成できるよう、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの現を図る。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを身に付け自分の思いや考えを深める学習の充実を図る。 ○内容の「知識及び技能」に示す事項については、「思考力、判断力、表現力等」に示す事項の指導を通して指導することを基本とする。
〈小学部〉	○「聞くこと・話すこと」に該当する授業時数は、児童の言語発達の状態を考慮し、適切に定める。また、音声言語のための教材を積極的に活用するなどし、指導の効果を高めるよう工夫する。 ○「書くこと」に該当する授業時数は、児童の運動の能力や手先の器用さなどを考慮し、適切に定める。また、書き表す内容や方法については、個に応じて適切に選択する。 ○「読むこと」に該当する授業時数は、児童の言語発達の状態を考慮し、適切に定める。また、身近な題材を中心に段階的に様々な題材や文章に触れる機会を設ける。
〈中学部〉	○「聞くこと・話すこと」は、生活に必要な話し言葉を身に付け、活用できるよう指導する。 ○「書くこと」は、筆記具を用いる技能の指導に偏ることなく、文章を書く場面を設けるよう工夫する。 ○「読むこと」は、発達の段階に応じた様々な文章に接し、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等における読書の指導や学校図書館等における指導との関連を図る。

【内容の取扱い】

〈小学部〉	○文字に関する事項については、次のとおり取り扱う。 ・平仮名、片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができるよう指導を工夫する。 ・日常生活や他教科等で必要な漢字を読み、文や文章の中で使うなど、適切に指導内容を設定する。 ・平仮名、片仮名の読み書きが身に付き、字形を取ることができるなどの児童の学習状況に応じて、ローマ字を取り扱うこともできる。 ○学校図書館など、目的をもって計画的に利用し、児童が図書に親しむことができるよう配慮する。 ○教材については、次の事項に留意する。 ・児童の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じ、興味・関心のある題材や生活に関連する身近な題材を中心に扱いながら、徐々に様々な種類や形式の文、文章に触れる機会を設ける。その際、児童が自分の考えや気持ちを伝える活動を重視する。 ・読み物教材は、場面の切り替えや筋の移り変わりが捉えやすい題材を選ぶようにする。
〈中学部〉	○文字に関する事項については、次のとおり取り扱う。 ・生活場面や関わる相手が多様になることに応じて、平仮名、片仮名、漢字に加えてローマ字などの文字を取り扱うようにする。 ・これまで学習した句読点の使い方や長音、撥音などの表記について、正しくより適切に用いることができるよう引き続き指導する。 ○学校図書館などを目的をもって計画的に利用し、活用を図る。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、生徒が必要な本を選ぶことができるよう配慮する。 ○教材については、次の事項に留意する。 ・生徒の障害の状態や特性及び心身の発達段階等に応じ、興味・関心のある話題や身近な題材から、日常生活や社会生活及び職業生活に関連する題材まで、様々な種類や形式の文、文章を取り扱う機会を設ける。 ・読み物教材は、登場人物の行動や言葉から心情を読み取りやすいものや、情景が思い浮かびやすいものを選ぶ。また、生徒の生活範囲が広がり、生活する力が高まるような内容の教材を選ぶ。

3 算数科／数学科

【教科の目標】

学 部 目 標	小学部	中学部
	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解するとともに、日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付けるようにする。	数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などに気付き感じ取る力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。	日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	数学的活動の楽しさに気付き、関心や興味をもち、学習したことを結び付けてよりよく問題を解決しようとする態度、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を養う。	数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

算数／数学【段階の目標】

学 部 ・ 段 階		小 学 部		
目 標		1 段階	2 段階	3 段階
A数量の基礎	知識・技能	身の回りのものに気付き、対応させたり、組み合わせたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。	—	—
	思考・判断・表現	身の回りにあるもの同士を対応させたり、組み合わせたりするなど、数量に関心をもって関わる力を養う。	—	—
	学びに向かう力・人間性	数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	—	—
A数と計算	知識・技能	ものの有無や3までの数的要素に気付き、身の回りのものの数に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。	10までの数の概念や表し方について分かり、数についての感覚をもつとともに、ものと数との関係に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。	100までの数の概念や表し方について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法の意味について理解し、これらの簡単な計算ができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。
	思考・判断・表現	身の回りのものの有無や数的要素に注目し、数を直感的に捉えたり、数を用いて表現したりする力を養う。	日常生活の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方を考え、表現する力を養う。	日常の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方や計算の仕方を考え、表現する力を養う。
	学びに向かう力・人間性	数量に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
B図形	知識・技能	身の回りのものの上下や前後、形の違いに気付き、違いに応じて関わることについての技能を身に付けるようにする。	身の回りのものの形に着目し、集めたり、分類したりすることを通して、図形の違いが分かるようにするための技能を身に付けるようにする。	身の回りのものの形の観察などの活動を通して、図形についての感覚を豊かにするとともに、ものについて、その形の合同、移動、位置、機能、角の大きさの意味に関わる基礎的な知識を理解することなどについての技能を身に付けるようにする。
	思考・判断・表現	身の回りのものの形に注目し、同じ形を捉えたり、形の違いを捉えたりする力を養う。	身の回りのものの形に関心をもち、分類したり、集めたりして、形の性質に気付く力を養う。	身の回りのものの形に着目し、ぴったり重なる形、移動、ものの位置及び機能的な特徴等について具体的に操作をして考える力を養う。
	学びに向かう力・人間性	図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	図形に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	図形や数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
C測定	知識・技能	身の回りにあるものの量の大きさに気付き、量の違いについての感覚を養うとともに、量に関わることについての技能を身に付けるようにする。	身の回りにある具体物の量の大きさに注目し、量の大きさの違いが分かるとともに、二つの量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。	身の回りにある長さや体積などの量の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、測定することなどについての技能を身に付けるようにする。
	思考・判断・表現	身の回りにあるものの大きさや長さなどの量の違いに注目し、量の大きさにより区別する力を養う。	量に着目し、二つの量を比べる方法が分かり、一方を基準にして他方と比べる力を養う。	身の回りにある量の単位に着目し、目的に応じて量を比較したり、量の大小及び相等関係を表現したりする力を養う。
	学びに向かう力・人間性	数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	数量や図形に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
C変化と関係	知識・技能	—	—	—
	思考・判断・表現	—	—	—
	学びに向かう力・人間性	—	—	—
Dデータの活用	知識・技能	—	身の回りのものや身近な出来事のつながりに関心をもち、それを簡単な絵や記号などを用いた表やグラフで表したり、読み取ったりする方法についての技能を身に付けるようにする。	身の回りにある事象を、簡単な絵や図を用いて整理したり、記号に置き換えて表したりしながら、読み取り方について理解することについての技能を身に付けるようにする。
	思考・判断・表現	—	身の回りのものや身近な出来事のつながりなどの共通の要素に着目し、簡単な表やグラフで表現する力を養う。	身の回りの事象を、比較のために簡単な絵や図に置き換えて簡潔に表現したり、データ数を記号で表現したりして、考える力を養う。
	学びに向かう力・人間性	—	数量や図形に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。

中学部	
1 段階	2 段階
—	—
—	—
—	—
3 位数程度の整数の概念について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法及び乗法の意味や性質について理解し、これらを計算することについての技能を身に付けるようにする。	整数の概念や性質について理解を深め、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法、乗法及び除法の意味や性質について理解し、それらの計算ができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方について知り、数量とその関係を表したり読み取ったりすることができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。
数とその表現や数の関係に着目し、具体物や図などを用いて、数の表し方や計算の仕方などを筋道立てて考えたり、関連付けて考えたりする力を養う。	数を構成する単位に着目して、数の表し方やその数について考えたり、扱う数の範囲を広げ、計算の仕方を見だし、筋道立てて考えたりするとともに、日常生活の問題場面を数量に着目して捉え、処理した結果を場面をもとに振り返り、解釈及び判断する力を養う。
数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気づき、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形について理解し、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形を作図したり、構成したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。	二等辺三角形や正三角形などの基本的な図形や面積、角の大きさについて理解し、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形を作図や構成したり、図形の面積や角の大きさを求めたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。
三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形を構成する要素に着目して、平面図形の特徴を捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から関連付けて考えたりする力を養う。	二等辺三角形、正三角形などの基本的な図形を構成する要素に着目して、平面図形の特徴を捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、図形を構成する要素に着目し、図形の計量について考察する力を養う。
図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気づき、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	図形や数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
身の回りにある長さ、体積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、それらを測定することについての技能を身に付けるようにする。	—
身の回りの事象を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力を養う。	—
数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気づき、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	—
—	二つの数量の関係や変化の様子を表や式、グラフで表すことについて理解するとともに、二つの数量の関係を割合によって比べることについての技能を身に付けるようにする。
—	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、変化の特徴に気づき、二つの数量の関係を表や式、グラフを用いて考察したり、割合を用いて考察したりする力を養う。
—	数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
身の回りにあるデータを分類整理して簡単な表やグラフに表したり、それらを問題解決において用いたりすることについての技能を身に付けるようにする。	データを表や棒グラフ、折れ線グラフで表す表し方や読み取り方を理解し、それらを問題解決における用い方についての技能を身に付けるようにする。
身の回りの事象を、データの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり、考察をしたりする力を養う。	身の回りの事象について整理されたデータの特徴に着目し、事象を簡潔に表現したり、適切に判断したりする力を養う。
データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気づき、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。	データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

算数／数学【内容】

学部・段階		小学部		
内 容		1 段階	2 段階	3 段階
A 数量の基礎	具体物の有無	具体物に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	—
		・具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。	—	—
		・目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。	—	—
	ものともとの対応	・対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉えること。	—	—
		ものともとの対応させることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	—
		・ものともとの対応させて配ること。	—	—
A 数と計算	数の概念	・分割した絵カードを組み合わせることを。関連の深い絵カードを組み合わせることを。	—	—
		・ものともとの関連付けることに注意を向け、ものの属性に注目し、仲間であることを判断したり、表現したりすること。	—	—
		数えることの基礎に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	10 までの数の数え方や表し方、構成に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	100 までの整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知識・技能	・ものの有無に気付くこと。	・ものともとの対応させることによって、ものの個数を比べ、同等・多少が分かること。	・20 までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の大小を比べたりすること。
		・目の前のものを、1 個、2 個、たくさんで表すこと。	・ものの集まりと対応して、数詞が分かること。	・100 までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解したりすること。
		・5 までの範囲で数唱をすること。	・ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	・数える対象を 2 ずつや 5 ずつのまとまりで数えること。
	思考・判断・表現	・3 までの範囲で具体物を取ることを。	・ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	・数を 10 のまとまりとして数えたり、10 のまとまりと端数に分けて数えたり書き表したりすること。
		・対応させてものを配ること。	・個数を正しく数えたり書き表したりすること。	・具体物を分配したり等分したりすること。
		・形や色、位置が変わっても、数は変わらないことについて気付くこと。	・二つの数を比べて数の大小が分かること。	・数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさを比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすこと。
	加法・減法	・数詞とものとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付き、それらを学習や生活で生かすこと。	・数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。	・整数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		—	・0 の意味について分かること。	・加法が用いられる合併や増加等の場合について理解すること。
		—	・一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたりして表すこと。	・加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
乗法	知識・技能	—	・具体的な事物を加えたり、減らしたりしながら、集合数を一つの数と他の数と関係付けてみることを。	・1 位数と 1 位数との加法の計算ができること。
		—	・10 の補数が分かること。	・1 位数と 2 位数との和が 20 までの加法の計算ができること。
		—	・数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさを比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。	・減法が用いられる求残や減少等の場合について理解すること。
	思考・判断・表現	—	—	・減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
		—	—	・20 までの数の範囲で減法の計算ができること。
		—	—	・日常の事象における数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を見付け出したり、学習や生活で生かしたりすること。

中学部	
1 段階	2 段階
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・ 1000までの数をいくつかの同じまとまりに分割したうえで数えたり、分類して数えたりすること。 ・ 3位数の表し方について理解すること。 ・ 数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。 ・ 3位数の数系列、順序、大小について、数直線上の目盛りを読んで理解したり、数を表したりすること。 ・ 一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。	整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・ 4位数までの十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について、理解すること。 ・ 10倍、100倍、$1/10$の大きさの数及びその表し方について知ること。 ・ 数を千を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解を深めること。
・ 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。	・ 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。
整数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	整数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
・ 2位数の加法及び減法について理解し、その計算ができること。また、それらの筆算の仕方について知ること。 ・ 簡単な場合について3位数の加法及び減法の計算の仕方を知ること。 ・ 加法及び減法に関して成り立つ性質について理解すること。 ・ 計算機を使って、具体的な生活場面における簡単な加法及び減法の計算ができること。	・ 3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方を知ること。 ・ 加法及び減法に関して成り立つ性質を理解すること。 ・ 計算機を使って、具体的な生活場面における加法及び減法の計算ができること。
・ 数量の関係に着目し、数を適用する範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。	・ 数量の関係に着目し、数の適用範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。
整数の乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	整数の乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
・ 乗法が用いられる場面や意味について知ること。 ・ 乗法が用いられる場面に式に表したり、式を読み取ったりすること。 ・ 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。 ・ 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算ができること。 ・ 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。	・ 1位数と1位数との乗法の計算ができ、それを適切に用いること。 ・ 交換法則や分配法則といった乗法に関して成り立つ性質を理解すること。
・ 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。	・ 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。

学部・段階			小学部		
内 容			1 段階	2 段階	3 段階
A 数と計算	除法	知識・技能	—	—	—
		思考・判断・表現	—	—	—
			—	—	—
	小数	知識・技能	—	—	—
		思考・判断・表現	—	—	—
			—	—	—
	分数	知識・技能	—	—	—
		思考・判断・表現	—	—	—
			—	—	—
	数量の関係	知識・技能	—	—	—
		思考・判断・表現	—	—	—
			—	—	—
B 図形	分類	知識・技能	ものの類別や分類・整理に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・ 具体物に注目して指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 ・ 形を観点に区別すること。 ・ 形が同じものを選ぶこと。 ・ 似ている二つのものを結び付けること。 ・ 関連の深い一対のものや絵カードを組み合わせること。 ・ 同じものの同士の集合づくりをすること。	ものの分類に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・ 色や形、大きさに着目して分類すること。 ・ 身近なものを目的、用途及び機能に着目して分類すること。	—
		思考・判断・表現	対象物に注意を向け、対象物の存在に気付き、諸感覚を協応させながら具体物を捉えること。 ・ ものの属性に着目し、様々な情報から同質なものや類似したものに気付き、日常生活の中で関心をもつこと。 ・ ものともとの関係に注意を向け、ものの属性に気付き、関心をもって対応しながら、表現する仕方を見つけ出し、日常生活で生かすこと。	・ ものを色や形、大きさ、目的、用途及び機能に着目し、共通点や相違点について考えて、分類する方法を日常生活で生かすこと。	—
	性質	知識・技能	—	身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・ 身の回りにあるものの形に関心を持ち、丸や三角、四角という名称を知ること。 ・ 縦や横の線、十字、△や□をかくこと。 ・ 大きさや色など属性の異なるものであっても形の属性に着目して、分類したり、集めたりすること。	身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・ ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えること。 ・ 具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 ・ 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を用いて、ものの位置を表すこと。
		思考・判断・表現	—	・ 身の回りにあるものの形に関心向け、丸や三角、四角を考えながら分けたり、集めたりすること。	・ 身の回りにあるものから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 ・ 身の回りにあるものの形を図形として捉えること。 ・ 身の回りにあるものの形の観察などをして、ものの形を認識したり、形の特徴を捉えたりすること。
	面積	知識・技能	—	—	—
		思考・判断・表現	—	—	—
	角の大きさ	知識・技能	—	—	角の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・ 傾斜をつくると角ができることを理解すること。
		思考・判断・表現	—	—	・ 傾斜が変化したときの斜面と底面の作り出す開き具合について、大きい・小さいと表現すること。

中学部	
1 段階	2 段階
—	整数の除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
—	・除法が用いられる場合や意味について理解すること。 ・除法が用いられる場面を式に表したり、読み取ったりすること。 ・除法と乗法との関係について理解すること。 ・除数と商が共に1位数である除法の計算ができること。 ・余りについて知り、余りの求め方が分かること。
—	・数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活に生かすこと。
—	小数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
—	・端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知ること。 ・1/10の位までの小数の仕組みや表し方について理解すること。
—	・数のまとまりに着目し、数の表し方の適用範囲を広げ、日常生活に生かすこと。
—	分数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
—	・1/2、1/4など簡単な分数について知ること。
—	・数のまとまりに着目し、数の表し方の適用範囲を広げ、日常生活に生かすこと。
—	数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
—	・数量の関係を式に表したり、式と図を関連付けたりすること。 ・□などを用いて数量の関係を式に表すことができることを知ること。 ・□などに数を当てはめて調べること。
—	・数量の関係に着目し、事柄や関係を式や図を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすること。
—	—
—	—
—	—
図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
・直線について知ること。 ・三角形や四角形について知ること。 ・正方形、長方形及び直角三角形について知ること。 ・正方形や長方形で捉えられる箱の形をしたものについて理解し、それらを構成したり、分解したりすること。 ・直角、頂点、辺及び面という用語を用いて図形の性質を表現すること。 ・基本的な図形が分かり、その図形をかいたり、簡単な図表を作ったりすること。 ・正方形、長方形及び直角三角形をかいたり、作ったり、それらを使って平面に敷き詰めたりすること。 ・図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を見るとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えること。	・二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に着目すること。 ・二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスなどを用いて作図すること。 ・基本的な図形と関連して角について知ること。 ・直線の平行や垂直の関係について理解すること。 ・円について、中心、半径及び直径を知ること。また、円に関連して、球についても直径などを知ること。
—	面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
—	・面積の単位〔cm²、m²、km²〕について知り、測定の意味について理解すること。 ・正方形及び長方形の面積の求め方について知ること。
—	・面積の単位に着目し、図形の面積について、求め方を考えたり、計算して表したりすること。
—	角の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
—	・角の大きさを回転の大きさとして捉えること。 ・角の大きさの単位〔°（度）〕について知り、測定の意味について理解すること。 ・角の大きさを測定すること。
—	・角の大きさの単位に着目し、図形の角の大きさを的確に表現して比較したり、図形の考察に生かしたりすること。

学部・段階		小学部		
内 容		1 段階	2 段階	3 段階
C 測定	量・測定	身の回りにある具体物のもつ大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身の回りにある具体物の量の大きさに注目し、二つの量の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身の回りのものの量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		・大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること。 ・ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現すること。	・長さ、重さ、高さ及び広さなどの量の大きさが分かること。 ・二つの量の大きさについて、一方を基準にして相対的に比べること。 ・長い・短い、重い・軽い、高い・低い及び広い・狭いなどの用語が分かること。	・長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。 ・身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つかで大きさを比較すること。
		・大小や多少等で区別することに関心を持ち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。	・長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに関心をもったり、量の大きさを用語を用いて表現したりすること。	・身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすること。
	時刻・時間			時刻や時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		—	—	・日常生活の中で時刻を読むこと。 ・時間の単位（日、午前、午後、時、分）について知り、それらの関係を理解すること。
		—	—	・時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活とを結び付けて表現すること。
C 変化と関係	二つの数量関係	知識・技能	—	—
		思考・判断・表現	—	—
	割合	知識・技能	—	—
		思考・判断・表現	—	—
	分類	知識・技能	—	—
		思考・判断・表現	—	—
D データの活用	分類	知識・技能	ものの分類に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身の回りにある事象を簡単な絵や図、記号に置き換えることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	・身近なものを目的、用途、機能に着目して分類すること。	・ものともとの対応やものの個数について、簡単な絵や図に表して整理したり、それらを読んだりすること。 ・身の回りにあるデータを簡単な記号に置き換えて表し、比較して読み取ること。
		思考・判断・表現	・身近なものの色や形、大きさ、目的及び用途等に関心に向け、共通点や相違点を考えながら、興味をもって分類すること。	・個数の把握や比較のために簡単な絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現すること。
	同等・多少	知識・技能	同等と多少に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—
		知識・技能	・ものともとの対応させることによって、ものの同等や多少が分かること。	—
		思考・判断・表現	・身の回りにあるものの個数に着目して絵グラフなどに表し、多少を読み取って表現すること。	—
	表	知識・技能	○×を用いた表に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—
		知識・技能	・身の回りの出来事から○×を用いた簡単な表を作成すること。 ・簡単な表で使用する○×の記号の意味が分かること。	—
		思考・判断・表現	・身の回りの出来事を捉え、○×を用いた簡単な表で表現すること。	—
	表・グラフ	知識・技能	—	—
		思考・判断・表現	—	—

中学部	
1 段階	2 段階
量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—
・目盛の原点を対象の端に当てて測定すること。 ・長さの単位 [mm、cm、m、km] や重さの単位 [g、kg] について知り、測定の意味を理解すること。 ・かさの単位 [mL、dL、L] について知り、測定の意味を理解すること。 ・長さ、重さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を選択したり、計器を用いて測定したりすること。 ・身の回りのものの特徴に着目し、目的に適した単位で量の大きさを表現したり、比べたりすること。	—
時刻や時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—
・時間の単位（秒）について知ること。 ・日常生活に必要な時刻や時間を求めること。	—
—	—
—	伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・変化の様子を表や式を用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりすること。
—	・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、表や式を用いて変化の特徴を考察すること。
—	二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・簡単な場合について、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いる場合があることを知ること。
—	・日常生活における数量の関係に着目し、図や式を用いて二つの数量の関係を考察すること。
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
—	—
身の回りにあるデータを簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・身の回りにあるデータを簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすること。	データを表やグラフで表したり、読み取ったりすることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ・データを日時や場所などの観点から分類及び整理し、表や棒グラフで表したり、読み取りすること。 ・データを二つの観点から分類及び整理し、折れ線グラフで表したり、読み取りすること。 ・表や棒グラフ、折れ線グラフの意味やその使い方理解すること。
・身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、簡単な表やグラフを用いながら読み取ったり、考察したりすること。	・身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、表や棒グラフを用いながら、読み取ったり、考察したり、結論を表現したりすること。 ・目的に応じてデータを集めて分類及び整理し、データの特徴や傾向を見付けて、適切なグラフを用いて表現したり、考察したりすること。

【数学的活動】

【教解 P115】

数学的活動とは、「事象を数理的に捉えて、算数・数学の問題を見だし、問題を自立的・協働的に解決する過程を遂行すること」である。算数・数学においては、この数学的活動を通して、資質・能力を育成する。

	小学部			中学部	
	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階
数 学 的 活 動	・身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や形に関わる活動	・身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりする活動	・身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、算数に主体的に関わる活動	・日常生活の事象から見いだした数学の問題を、具体物や図、式などを用いて解決し、結果を確かめたり、日常生活に生かしたりする活動	・身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数学の学習に関わる活動
	・日常の問題を取り上げたり算数の問題を具体物などを用いて解決したりして、結果を確かめる活動	・日常生活の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動	・日常の事象から見いだした算数の問題を、具体物、絵図、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動	・問題解決した過程や結果を、具体物や図、式などを用いて表現し伝え合う活動	・日常の事象から見いだした数学の問題を、具体物や図、表及び式などを用いて解決し、結果を確かめたり、日常生活に生かしたりする活動
	—	・問題解決した過程や結果を、具体物などを用いて表現する活動	・問題解決した過程や結果を、具体物や絵図、式などを用いて表現し、伝え合う活動	—	・問題解決した過程や結果を、具体物や図、表、式などを用いて表現し伝え合う活動

【指導計画作成上の配慮事項】

【教解 小P135・中P329】

〈小・中学部共通〉	○単元など内容や時間のまとまりを見通し、資質・能力を育成できるよう、数学的活動を通して、児童生徒の主体的・対話的で深い学びを図るようにする。その際、数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象を数理的に捉え、算数・数学の問題を見だし、問題を自立的・協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図る。 ○数量や図形についての基礎的な能力の維持や向上を図るため、適宜練習の機会を設けて計画的に指導する。また、段階間の指導内容を円滑に接続させるため、適切な反復による学習を進めるようにする。 ○指導内容については、「数と計算」「図形」など、各領域間の指導の関連を図る。
-----------	--

【内容の取扱い】

〈小・中学部共通〉	○思考力・判断力、表現力等を育成するため、具体物、言葉、数、式、図、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れる。 ○「数と計算」の指導は、具体物などの教具を適宜用いて、数と計算についての意味の理解を深めるよう留意する。 〈数学的活動における配慮事項〉 ○数学的活動は、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けたり、思考力、判断力、表現力等を高めたり、算数・数学を学ぶことの楽しさを実感したりするために、重要な役割を果たすものであることから、すべての事項において、数学的活動を通して指導する。 ○数学的活動を楽しめるようにするとともに、算数・数学を生活に活用することなどについて実感する機会を設ける。
〈小学部〉 1段階	〈数量の基礎〉 ○「図形」の基礎的な事項として関連付けながら取り上げる。 ○「身の回りにあるもの同士の対応や組み合わせ」については、分割した絵カードや関連の深い絵カードを組み合わせるなど、初歩的な分析や総合について取り扱う。 〈図形〉 ○「具体物に注目して指差す、つかもうとする、目で追う」については、様々な情報のうちから必要な情報を取り出し、他を捨象することを取り扱う。また、「類別や分類・整理」の指導内容につながるよう配慮する。

〈中学部〉	2段階	〈数と計算〉 ○次の金銭の価値に親しむことを取り扱う。 ・金種を用いる。 ・様々な種類の貨幣のもつ価値を知る。 〈図形〉 ○「具体物を用いて形を作ったり分解したりする」については、相違点や類似点に着目して分類することを取り扱う。 〈データの活用〉 ○「ものともとの対応やものの個数について、簡単な絵や図に表して整理したり、読んだりする」については、分類してまとめたもの同士の数量に着目できるよう配慮する。
	3段階	〈数と計算〉 ○次の金銭の価値に親しむことを取り扱う。 ・金種を用いる。 ・様々な種類の貨幣のもつ価値を理解する。 ・おつりを扱う。 〈図形〉 次の基礎的な事項と関連付けながら取り扱う。 ○大きさとしての角 ・身の回りにある直角を紙に写し取ったり、紙粘土でつくったりして「形としての角」を抽出する。 ・角度を変えるなどの操作を通して「大きさとしての角」を実感できるようにする。 〈測定〉 次の基礎的な事項と関連付けながら取り上げる。 ○量の保存性に対する理解 ・量を他の位置に移すことや分割していくつかに分けること、また、そのときに見かけの形が変わることなどを体験できるようにする。 ・見かけの形を元に戻したときに量の大きさが変わっていないということから、保存性について確かめるようにする。 ○量の性質の理解 ・量の概念を理解し、豊かにするために「量の比較性」「量の測定性」「量の加法性」に関わる体験を重視する。 ○時計の理解 ・アナログ時計の長針と短針とを区別し捉えることができるようにする。 ・アナログ時計の時は短針で決まること、分は長針が指す目盛りで決まることを理解できるようにする。 ・知識・技能の指導に当たっては、直接的な標示により時刻に関心をもちやすいデジタル方式を取り扱うことができるよう配慮する。 〈測定及びデータの活用〉 ○「時刻と時間」や「ものの個数などについて、簡単な絵や図に表して整理する」については、児童の日常生活に関連する学習と関連付けながら取り上げる。
	1段階	〈数と計算〉 ○整数の加法及び減法の筆算について学習する際、必要な場合は、2段階の数量関係で取り扱う（ ）や□などを用いることができる。 〈測定及びデータの活用〉 ○「量の単位と測定」「身の回りにあるデータを簡単な表やグラフで表す」内容については、温度計や体温計の目盛りの読み方やデータのまとめ方を取り扱う。 〈測定〉 ○かさの単位については、任意の単位を用いた比較や基準容器で正確に計量する技能を指導する。
	2段階	〈数と計算〉 ○整数の加法及び減法、乗法については、簡単な計算は暗算でできるよう配慮する。また、計算の結果の見積もりについても触れる。 〈図形〉 ○知識・技能の内容で扱う基本的な図形については、定規、コンパスなどを用いて、図形をかいたり確かめたりする活動を通して、図形に関心をもちさせるよう配慮する。コンパスを取り扱う際には、苦手意識をもちにくくして成就感を味わうことができるよう、生徒の障害の状態等に配慮する。 〈データの活用〉 ○いろいろな表やグラフに触れるとともに、式やグラフが、事象の変化や全体の傾向をつかむのに便利であることに気付くよう配慮する。

4 音楽科

【教科の目標】

学 部 目 標	小学部	中学部
	表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活の中の音や音楽に興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能	曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。	曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。	音楽表現を考えることや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。	進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、様々な音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

【段階の目標】

学部・段階 目 標	小学部			中学部	
	1 段階	2 段階	3 段階	1 段階	2 段階
知識・技能	音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心を向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。	曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	曲名や曲の雰囲気と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。	曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付くながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。	音楽表現を工夫することや、表現することを通して、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。	音楽表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。	音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、音や音楽を味わいながら聴くことができるようにする。	音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。
学びに向かう力・人間性	音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しむものにする態度を養う。	音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにする態度を養う。	音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に興味をもつとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度を養う。	進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に触れるとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度を養う。	主体的に楽しく音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度を養う。

音楽【内容】

学部・段階		小学部		
内 容		1 段階	2 段階	3 段階
		音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
A 表現	音楽遊び (小1段階)	思考・判断・表現 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつこと。	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現に対する思いをもつこと。
		知識 表現する音や音楽に気付くこと。	次のことに気付くこと。 ・曲の特徴的なリズムと旋律。 ・曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉。	次のことに気付くこと。 ・曲の雰囲気と曲の速さや強弱との関わり。 ・曲名や歌詞に使われている言葉から受けるイメージと曲の雰囲気との関わり。
		技能 音や音楽を感じて体を動かす。音や音楽を感じて楽器の音を出す。音や音楽を感じて声を出す。	思いに合った表現をするための技能。 ・範唱を聴いて、曲の一部分を模唱する。 ・自分の歌声に注意を向けて歌う。 ・教師や友達と一緒に歌う。	思いに合った歌い方で歌うための技能。 ・範唱を聴いて歌ったり、歌詞やリズムを意識して歌ったりする。 ・自分の歌声の大きさや発音などに気を付けて歌う。 ・教師や友達と一緒に声を合わせて歌う。
	器楽	—	器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思考・判断・表現 —	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもつこと。	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現に対する思いをもつこと。
		知識 —	次のことに気付くこと。 ・拍や曲の特徴的なリズム。 ・楽器の音色の違い。	次のことに気付くこと。 ・リズム、速度や強弱の違い。 ・演奏の仕方による楽器の音色の違い。
	音楽づくり	—	思いに合った表現をするための技能。 ・範奏を聴き、模倣をして演奏する。 ・身近な打楽器を演奏する。 ・教師や友達と一緒に演奏する。	思いに合った表現をするための技能。 ・簡単な楽譜などを見てリズム演奏などをする。 ・身近な打楽器や旋律楽器を使って演奏する。 ・教師や友達の楽器の音を聴いて演奏する。
		思考・判断・表現 —	音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識 —	音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次のことができるようにする。 ・音遊びを通して、音の面白さに気付く。 ・音や音楽で表現することについて思いをもつ。	音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次のことができるようにする。 ・音遊びを通して、音の面白さに気付いたり、音楽づくりの発想を得たりすること。 ・どのように音を音楽にしていかにについて思いをもつこと。
	身体表現	—	次のことが生み出す面白さなどに触れて気付くこと。 ・声や身の回りの様々な音の特徴。 ・音のつなげ方の特徴。	次のことが生み出す面白さなどと関わって気付くこと。 ・声や身の回りの様々な音の特徴。 ・簡単なリズム・パターンの特徴。
		技能 —	気付きを生かした表現や思いに合った表現をするための技能。 ・音を運んだりつなげたりして表現する。 ・教師や友達と一緒に簡単な音や音楽をつくる。	気付きや発想を生かした表現や、思いに合った表現をするための技能。 ・音を運んだりつなげたりして表現する。 ・教師や友達と一緒に音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる。
		思考・判断・表現 —	身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
B 鑑賞	音楽遊び (小1段階)	思考・判断・表現 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見付けようとする。	鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識 聴こえてくる音や音楽に気付くこと。	鑑賞についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身近な人の演奏を見たり、体の動きで表したりしながら聴くこと。	鑑賞についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだして聴くこと。
		—	身近な人の演奏に触れて、好きな音色や楽器の音を見付けること。	曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴に気付くこと。
共通事項	「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付ける	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じとったこととの関わりについて考えること。 絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語について、音楽における動きと関わらせて、その意味に触れること。		

中学部	
1 段階	2 段階
歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気合いに合うような表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。
次のことに気付くこと。 ・曲名や曲の雰囲気と音楽の構造との関わり。 ・曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わり。	次のことに気付くこと。 ・曲名や曲想と音楽の構造との関わり。 ・曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わり。
思いや意図にふさわしい歌い方で歌うための技能。 ・範唱を聴いて歌ったり、歌詞を見て歌ったりする。 ・発声の仕方に気を付けて歌う。 ・友達の歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌う。	思いや意図にふさわしい歌い方で歌うための技能。 ・歌詞やリズム、音の高さ等を意識して歌う。 ・呼吸及び発音の仕方に気を付けて歌う。 ・独唱と、斉唱及び簡単な輪唱などをする。
器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気合いに合うような表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。
次のことに気付くこと。 ・曲の雰囲気と音楽の構造との関わり。 ・楽器の音色と全体の響きとの関わり。	次のことに気付くこと。 ・曲想と音楽の構造との関わり。 ・多様な楽器の音色と全体の響きとの関わり。
思いや意図にふさわしい表現をするための技能。 ・簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する。 ・音色や響きに気を付けて、打楽器や旋律楽器を使って演奏する。 ・友達の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する。	思いや意図にふさわしい表現をするための技能。 ・簡単な楽譜を見てリズムや速度、音色などを意識して、演奏する。 ・打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを意識して、音色や響きに気を付けて演奏する。 ・友達の楽器の音や伴奏を聴いて、リズムや速度を合わせて演奏する。
音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次のことができるようになる。 ・音遊びを通して、どのように音楽をつくるのかについて発想を得ること。 ・音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。	音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次のことができるようになる。 ・即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。 ・音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。
次のことが生み出す面白さなどと関わって気付くこと。 ・いろいろな音の響きの特徴。 ・リズム・パターンや短い旋律のつなぎ方の特徴。	次のことが生み出す面白さなどと関わらせて理解すること。 ・いろいろな音の響きやその組み合わせの特徴。 ・リズム・パターンや短い旋律のつなぎ方や重ね方の特徴。
発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするための技能。 ・設定した条件に基づいて、音を選択したり組み合わせたりして表現する。 ・音楽の仕組みを生かして、簡単な音楽をつくる。	発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするための技能。 ・設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する。 ・音楽の仕組みを生かして、音楽をつくる。
身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲の雰囲気を感じ取り、体を動かすことについての思いや意図をもつこと。	身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲想を感じ取り、体を動かすことについての思いや意図をもつこと。
次のことの関わりについて気付くこと。 ・曲の雰囲気と音楽の構造との関わり。 ・曲名や歌詞と体の動きとの関わり。	次のことの関わりについて気付くこと。 ・曲想と音楽の構造との関わり。 ・曲名や歌詞と体の動きとの関わり。
思いや意図にふさわしい動きで表現するための技能。 ・示範を見て体を動かしたり、曲の速度やリズム、曲の雰囲気に合わせて身体表現したりする。 ・音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせる身体表現をする。 ・友達と動きを合わせて表現する。	思いや意図にふさわしい動きで表現するための技能。 ・示範を見て表現したり、曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現したりする。 ・音や音楽を聴いて、様々な動きを合わせてまとまりのある表現をする。 ・友達と動きを相談して、合わせて表現する。
鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
鑑賞についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだして聴くこと。	鑑賞についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。
曲想とリズムや速度、旋律の特徴との関わりについて分かること。	曲想と音楽の構造等との関わりについて理解すること。
音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。	
音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。	

音楽科

【指導計画作成上の配慮事項】

〈小・中学部共通〉	○題材など内容や時間のまとまりを見通し、資質・能力を育成できるよう、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図る。 ○「A表現」と「B鑑賞」の指導は、思考力、判断力、表現力等と知識及び技能の各事項を、適切に関連させて指導する。また、〔共通事項〕は表現及び鑑賞に共通に必要な資質・能力のため、適宜〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図る。 ○国歌「君が代」を、時期に応じて適切に指導する。 ○各段階においては、児童生徒の発達の段階と生活年齢を考慮する。
-----------	--

【内容の取扱い】

〈小・中学部共通〉	〈音楽科全般〉 ○音や音楽との一体感を味わえるようにするため、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れる。 ○音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図る指導を工夫する。その際、児童生徒の言語理解や発声・発語の状況等を考慮し、必要に応じてコンピュータや教育機器も活用する。 ○児童生徒が学校内における音楽活動とのつながりを意識できるような機会を作るなど、児童生徒や学校、地域の実態に応じ、生活や社会の中の音や音楽と主体的に関わっていくことができるよう配慮する。 ○合奏や合唱などの活動を通して和音のもつ表情を感じることができるようにする。また、長調及び短調の曲においては、I、IV、V及びV₇などの和音を中心に指導する。 ○我が国や郷土の音楽の指導に当たっては、そのよさなどを感じ取って表現したり鑑賞したりできるよう、楽譜や音源等の示し方、伴奏の仕方、曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方など指導方法について工夫する。 〈歌唱〉 ○児童生徒の実態や学習状況及び必要に応じて適宜、移動ド唱法を取り上げるようにする。 ○成長に伴う声の変化に気付くことができるよう、変声期の児童生徒に対して適切に配慮する。 〈音楽づくり〉 ○音遊びや即興的な表現では、リズムや旋律を模倣したり、身近なものから多様な音を探したりして、音楽づくりのための発想を得ることができるようにする。 ○どのような音楽を、どのようにしてつくるかなどについて、児童生徒の実態に応じて具体的な例を示しながら指導する。 ○つくった音楽については、指導のねらいに即し、必要に応じて記録できるようにする。記録の仕方については、図や絵によるものなど、柔軟に指導する。 ○拍のないリズム、我が国の音楽（わらべうたや民謡等）に使われている音階や調性にとらわれない音階などを、児童生徒の実態に応じて取り上げるようにする。 〈観賞〉 ○気付いたり感じたりしたことを体の動きで表現したり、絵に描いたり、言葉で表現したりできるよう指導を工夫する。 〔共通事項〕 ○「音楽を形づくっている要素」については、児童生徒の発達の段階やねらいに応じて、次のことを適切に選択したり関連付けたりして必要に応じて指導する。 ・音楽を特徴づけている要素：音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ等 ・音楽の仕組み：反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横のとの関係等 ○「音符、休符、記号や用語」については、児童生徒の実態や学習状況を考慮して取り扱う。 ○音楽づくり教材は、児童生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた指導のねらいとの関係において適切であり、身近で親しみのもてるものを取り扱う。 ○音や音楽の特徴を身体表現にするために適した主となる教材については、既習の歌唱教材や器楽教材を含め、音や音楽を聴いて体を動かすことができるものを中心に、児童生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた指導のねらいとの関係において適切であり、親しみのもてるものを取り扱う。
-----------	--

〈小学部〉	〈楽器〉 ○打楽器は、簡単に演奏できる楽器（ツリーチャイム、カバサ、鈴等）、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、児童の実態や発達の段階を考慮して選択する。 ○身近な楽器は、様々な打楽器、鍵盤ハーモニカなどの中から児童の実態や発達段階を考慮して選択する。 ○3段階で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、鍵盤楽器などの中から児童の実態や発達の段階を考慮して選択する。 ○合奏で扱う楽器については、リズム、旋律、和音などの各声部の演奏ができるよう、楽器の特性を生かして選択する。 〈歌唱教材〉 ○歌唱教材については、次のものを取り扱う。 ・児童の生活年齢及び発達の段階に応じた、日常生活に関連した曲 ・主となる歌唱教材については、下の共通教材を含めて、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の曲 ・共通教材：「うみ」「かたつむり」「日のまる」「ひらいたひらいた」「かくれんぼ」「春がきた」「虫のこえ」「夕やけこやけ」 〈器楽教材〉 ○器楽教材については、次のものを取り扱う。 ・児童の生活年齢及び発達の段階に応じた、指導のねらいとの関係において適切であり、身近で親しみのもてるもの ・主となる器楽教材については、既習の歌唱教材を含め、主旋律に簡単なリズム伴奏を加えた曲 〈観賞教材〉 ○観賞教材については、次のものを取り扱う。 ・主となる観賞教材については、既習の歌唱教材や器楽教材を含め、児童の生活年齢及び発達の段階に応じた、曲想を感じ取り、情景を思い浮かべやすい、いろいろな種類の曲 ・音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、聴く楽しさを感じやすい曲 ・楽器の音色や人の声の表現の違いを聴き取りやすい、いろいろな演奏形態による曲
〈中学部〉	〈楽器〉 ・打楽器は、簡単に演奏できる楽器（ツリーチャイム、カバサ、鈴等）、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、生徒の実態や発達の段階を考慮して選択する。 ・1段階で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、鍵盤楽器などの中から生徒の実態や発達の段階を考慮して選択する。 ・2段階で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、鍵盤楽器や和楽器、電子楽器などの中から生徒の実態や発達の段階を考慮して選択する。 ・合奏で扱う楽器については、リズム、旋律、和音などの各声部の演奏ができるよう、楽器の特性を生かして選択する 〈歌唱教材〉 ○歌唱教材については、次のものを取り扱う。 ・生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた、日常生活に関連した曲 ・主となる歌唱教材については、下の共通教材を含めて、独唱、斉唱で歌う曲 ・1段階の共通教材：「うさぎ」「茶つみ」「春の小川」「ふじ山」「さくらさくら」「とんび」「まきばの朝」「もみじ」 ・2段階の共通教材：「このぼり」「子もり歌」「スキーの歌」「冬げしき」「越天楽今様（歌詞は第2節まで）」「おぼろ月夜」「ふるさと」「われは海の子（歌詞は第3節まで）」 〈器楽教材〉 ○器楽教材については、次のものを取り扱う。 ・生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた、指導のねらいとの関係において適切であり、身近で親しみのもてるもの ・主となる器楽教材については、既習の歌唱教材を含め、主旋律に簡単なリズム伴奏や低音部を加えた曲 〈観賞教材〉 ○観賞教材については、次のものを取り扱う。 ・主となる観賞教材については、既習の歌唱教材や器楽教材を含め、生徒の生活年齢及び発達の段階に応じた、曲想を感じ取り、情景を思い浮かべやすい、いろいろな種類の曲 ・音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、曲の雰囲気や音楽の構造に気付きやすい曲 ・楽器の音色や人の声の表現の違いなどによる演奏の特徴が聴き取りやすい、いろいろな演奏形態による曲

5 図画工作科／美術科

【教科の目標】

学 部 目 標	小学部	中学部
	表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。
知識及び技能	形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくることができるようにする。	造形的な視点について理解し、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができる。	造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや材料などを基に、発想し構想するとともに、造形や作品などを鑑賞し、自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。	創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を営む態度を養い、豊かな情操を培う。

【段階の目標】

学 部・段階 目 標	小学部			中学部	
	1 段階	2 段階	3 段階	1 段階	2 段階
知識・技能	形や色などに気付き、材料や用具を使おうとするようにする。	形や色など違いに気付き、表したいことを基に材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。	形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。	造形的な視点について気付き、材料や用具の扱い方に親しむとともに、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。	造形的な視点について理解し、材料や用具の扱い方などを身に付けるとともに、多様な表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	表したいことを思い付いたり、作品を見たりできるようにする。	表したいことを思い付いたり、作品などの面白さや楽しさを感じ取ったりすることができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。	造形的なよさや面白さ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや思ったこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、身近にある造形や作品などから、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。	造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや想像したこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、自分たちの作品や美術作品などに親しみ、自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。
学びに向かう力・人間性	進んで表したり見たりする活動に取り組む、つくりだすことの楽しさに気付くとともに、形や色などに関わることにより楽しい生活を創造しようとする態度を養う。	進んで表現や鑑賞の活動に取り組む、つくりだす喜びを感じるとともに、形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。	進んで表現や鑑賞の活動に取り組む、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。	楽しく美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を営む態度を養う。	主体的に美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を高め、心豊かな生活を営む態度を養う。

学部・段階		小学部			中学部	
内 容		1 段階	2 段階	3 段階	1 段階	2 段階
A 表現		線を引く、絵をかくなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近な出来事や思ったことを基に絵をかく、粘土で形をつくるなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	日常生活の出来事や思ったことを基に絵をかく、作品をつくったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	日常生活の中で経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、描いたり、つくったり、それらを飾ったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、描いたり、つくったり、それらを飾ったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思考・判断・表現	材料などから表したいことを思い付くこと。	材料や、感じたこと、創造したこと、見たことから表したいことを思い付くこと。	材料や、感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことから表したいことを思い付くこと。	経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。	経験したことや想像したこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。
	技能	身の回りの自然物に触れながらかく、切る、ぬる、はるなどすること。	身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくったりすること。	様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかいたり、作品をつくったりすること。	材料や用具の扱いに親しみ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具を選んで使い表すこと。	材料や用具の扱い方を身に付け、表したいことに合わせて材料や用具の特徴を生かしたり、それらを組み合わせたりして計画的に表すこと。
B 鑑賞		身の回りにあるものや自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身の回りにあるものや自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分たちの作品や身の回りにある作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分たちの作品や身近な造形品の鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分たちの作品や美術作品などの鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思考・判断・表現	身の回りにあるものなどを見ること。	身近にあるものの形や色の面白さについて感じ取り、自分の見方や感じ方を広げること。	自分たちの作品や日常生活の中にあるものの形や色、表し方の面白さなどについて、感じ取り、自分の見方や感じ方を広げること。	- 自分たちの作品や身近な造形品の制作の過程などの鑑賞を通して、よさや面白さに気づき、自分の見方や感じ方を広げること。 - 表し方や材料による印象の違いなどに気づき、自分の見方や感じ方を広げること。	- 自分たちの作品や美術作品などを鑑賞して、よさや面白さ、美しさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めること。 - 表し方や材料による特徴の違いなどを捉え、自分の見方や感じ方を深めること。
共通事項	「A表現」「B鑑賞」を通して、次の事項を身に付ける	- 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などについて気付くこと。 - 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	- 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いに気付くこと。 - 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	- 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付くこと。 - 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。	- 形や色彩、材料や光などの特徴について知ること。 - 造形的な特徴などからイメージをもつこと。	- 形や色彩、材料や光などの特徴について理解すること。 - 造形的な特徴などからイメージを捉えること。

図画工作科／美術科

【指導計画作成上の配慮事項】

〈小・中学部共通〉	○題材など内容や時間のまとまりを見通し、資質・能力を育成できるよう、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図る。 ○「A表現」「B鑑賞」の指導に当たっては、相互の関連を図るようにする。ただし、「B鑑賞」は、指導の効果を高めるために必要がある場合には、児童生徒や学校の実態に応じ、独立して行うようにする。 ○〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」「B鑑賞」の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫する。 ○「A表現」の指導に当たっては、適宜共同してつくりだす活動を取り上げるようにする。 ○「B鑑賞」の指導に当たっては、感じたことや思ったことを周りの人と共有できる機会を設けるようにする。
〈小学部〉	○他教科や特別活動等との関連を図り、総合的に活動することで、指導の効果を高めるようにする。
〈中学部〉	○「B鑑賞」の指導に当たっては、生徒や学校の実態に応じて、地域の美術館を利用するなど、連携を図るようにする。また、学校図書館等における鑑賞用図書、映像資料等の活用を図る。

【内容の取扱い】

〈小・中学部共通〉	○造形活動（中学部は「A表現」の指導）においては、材料や用具の安全な使い方について指導するとともに活動場所を事前に点検するなどして、事故防止について徹底する。 ○児童生徒が個性を生かして活動することができるようにするため、学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにする。 ○「A表現」では、活動の全過程を通して児童生徒が実現したい思いを大切にしながら活動できるようにし、自分のよさや可能性を見だし、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにする。 ○互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにする。 ○材料については、地域の身近にある材料なども取り上げ、指導する。 ○作品を校内の適切な場所に展示するなどし、日常の学校生活においてそれらを鑑賞できるよう配慮する。また、学校や地域の実態に応じて、校外に児童生徒の作品を展示する機会を設けるなどする。
〈小学部〉	○土、木、紙などの身近な材料に親しんで造形活動などを行うことや、はさみ、のりなど身近で扱いやすい用具等の扱い方を理解して使えるよう指導する。 ○「A表現」「B鑑賞」の学習を通して学んだことが、生活や社会の中で生かせるよう指導することや、作品や用具等を大切に扱うことを指導する。 ○コンピューター、カメラなどの情報機器を利用することについては、表現や鑑賞の活動で使う用具の一つとして扱うとともに、必要性を十分に検討して利用する。
〈中学部〉	○「A表現」「B鑑賞」の学習を通して学んだことが、生活や社会の中で生かせるようにすることや、作品や用具等を大切に扱うことを理解して使えるよう指導する。 ○美術の表現の可能性を広げるために、写真・ビデオ・コンピューター等の映像メディアの積極的な活用を図る。